

駒場高校新聞

THE KOMABA HIGH SCHOOL NEWS

特別号

編集者
(編集長) 柴田
(編集) 太田 秋山 小谷

2018年3月26日 (月) 発行 特別号
目黒区大橋2の18の1 TEL (3466) 2481 都立駒場高校新聞局

人体の神秘と 科学者の努力

JR上野駅から歩いて5分ほどの場所にある国立科学博物館。この博物館では三月十三日(火)から六月十七日(日)まで「特別展『人体―神秘への挑戦―』」が開催される。新聞局は一般公開に先立って、メディア向けのプレス内覧会で一般の報道者たちと同じように取材させていただいた。←人体どもくん

JR上野駅から歩いて、一番近くにあるが、一番謎の多い私たちの「体」。様々な謎を解き明かすため、科学者はたくさんの研究を重ねてきた。この特別展では、そんな科学者たちの研究から、体について学ぶことができる。各国にある様々な貴重な歴史資料や現代の最新テクノロジー、そして本物のヒトの臓器な

ど、多様な方法を使って人体の謎を解き明かしている。この展示は「NHKスペシャル『人体 神秘の巨大ネットワーク』」と連動して展示が構成されているので、その番組を見ている人は是非この展示に足を運んでほしい。入口で特別仕様の「人体どもくん」が迎えてくれた。



一番最初は、ギリシャ時代やローマ時代に生きた科学者がどのような人体を理解しようとしたかということが展示によって示されている。人体を解剖することは昔から忌み嫌われていた。しかしそれでも研究をした努力の結果がそこにはあった。過去の研究の足跡をたどった後は、「循環器系・泌尿器系」「神経系」「消化器系・呼吸器系」「運動器系」の各器官の紹介、説明がある。体の各器官がどのようにはたらいているの

か、模型や図を多用して説明されている。この展示には、生物や生物基礎で学んだことも多く展示されており、学んだことをもう一度確認できた。その先には、人体の発生の仕方、成長過程が展示してある。人はどのようにして生まれ成長していくのか。お腹の中にいるときの成長も知ることが出来る。

そしてこの展示の目玉、体の各器官は互いにコミュニケーションを取り合っているというところが学べる展示が第2章の最後にある。映像で学んだあと、実際に臓器の声を聞くことが出来る体験型の展示があった。そして最後に、現在行われ続けているゲノム研究についての展示。今までわかっていたこ

とから、新たに研究で発見されたことなど、様々な角度からゲノム研究を知ることが出来る。自分という存在の機能や能力は、自分一人ではなかなか知ることができない。だからこそこの特別展に足を運んで、自分とは何なのかをぜひ知ってほしい。(柴田)

全国四体の キンストレーキ

博物館に静かに佇む男女のキンストレーキ。精巧な作りで、今にも動き出しそうな印象を受ける。キンストレーキはオランダ語で人工の死体 (Kunstlijk) という意味を持つ全身人体模型である。キンストレーキは支柱は金属、胴体は紙粘土でできています。十七世紀末から蠟製の人体模型は作られていたが高価な

うえに繊細な作りで、教育の場での活躍は難しかった。それを可能にしたのがキンストレーキだ。現在日本には長崎、福井、金沢、に計四体保管されている。本展では二体のキンストレーキを展示している。

「男性」

金沢大学医学部記念館所蔵。167・8cm。フランス製。一八六八年に黒川良安が加賀藩の命を受けて長崎まで購入しに行き、翌年金沢に持ち帰った。腹内には紙粘土製の器官が内蔵されており取り出すことができる。腹部が少し膨らんでい

→男女のキンストレーキが損傷している。長年多くの人に使われてきた証だろう。



うな点で、キンストレーキからは先人の並々な努力を感じることが出来るだろう。(小谷)

福井市立郷土歴史博物館所蔵。福井藩の医学の学校、濟世館により一八六九年に購入された。本来はもう一体、ペアの男性の模様が存在する。右手を胸元に添えているポーズは、その男性のキンストレーキとダンスをしているかのようにも捉えられる。人体について研究をしたうえで、その研究内容をどのように表現するか。そのよう

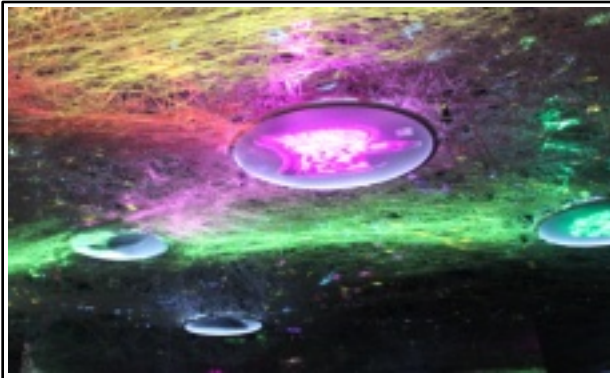
特別展「人体―神秘への挑戦―」
会場 国立科学博物館 (東京・上野公園)
会期 2018年3月13日 (火) ~6月17日 (日)
休館日 月曜日 (3月26日、4月2日、30日、6月11日は開館)
開館時間 9:00~17:00
金曜、土曜日は20:00まで
※休館日や開館時間はHPをチェック!

臓器の声、聴いてみる？

一章と二章の展示を見終え、順路を進むと、薄暗い展示室の入口にたどり着く。中からは様々な声が聞こえ、少し不気味だ。しかし、中に入ってみると美しい世界(写真①参照)が広がっている。

この展示室は「ネットワークシンフォニー」という名前で、撮影可の場所だ。是非#人体展をつけてお気に入り写真を投稿してほしい。

床には写真②のように大きく人体が描かれており、臓器の名称の上に人が立つとその臓器が発する声が聴こえる。



写真①↑展示室内の様子

これもまた人体の内側でやり取りされているメッセージ物質を表している。「ネットワークシンフォニー」の前の展示室にある「人体4Kシアター」では、高画質大画面の映像と音声でメッ

セージ物質についてわかりやすく解説されているので、これを見た後に「ネットワークシンフォニー」を訪れる

んからも 母体に向かったメッセージ物質が出てきているという。「ネットワークシンフォニー」では、私



↑写真②NHKスペシャル人体 ホームページより

ちの体の中でいかに騒がしく、忙しく情報が交換されているかを感じて、幻想的な光から神秘的な美しさを感じてみる。

秋山

哺乳類の進化のヒ・ミ・ツ

人体展の最後、エスカレーターを上った先にある第3章ではゲノム研究について展示されている。電子顕微鏡で見た体

報道内覧会を終え「人体 神秘への挑戦」の開幕を告げる開会式が挙行された。まず登壇したのは、この展覧会の主催者である国立科学博物館長の林良博氏。挨拶として、展示のコンセプトや関係者の方への感謝が語られた。

次は、同じく主催者であるNHK会長の上田良一氏からの挨拶。こちらは、併せてNHKで放送されている「人体 神秘の巨大ネットワーク」やそれに関する展示の紹介だった。その後、来賓の文部科学副大臣羽野秀樹氏からの祝辞。「グッドアフターヌーン、レディスアンドジェントルメン」という出だしから全て英語で言うのかと思いきや、「ここからは得意の日本語でお話します」と続いている。そこで笑っている人も

人体展 開幕!

多く、緊張感に包まれていた式中の空気がほぐれるのを感じた。最後にあったのは、この式のマインイベントである。この式のマインイベントである。



→テープカット

朝日新聞社執行役員企画事業担当、市村友一氏の五名が行う。一本のテープが六本に分かれたと同時に、「人体 神秘への挑戦」は開幕した。皆さんがこの展示に足を運んだ時、この展示会が開催できている陰には多くの大人の存在があるということを感じていただけました。

〈太田〉

内の組織の写真が並んだ廊下を抜けた先にこの展示はあった。そこには新たに発見された縄文人の遺伝子情報を基に作られた縄文人の頭部モデルや、父にヒョウ、母にライオンを持つレオポンの剥製などがあつた。

出口の手前にあつたのは、哺乳類誕生から現代まで、哺乳類はどのような進化、発展を遂げてきたのかが分かる系統樹。動物の進化は、生物で学習したような突然

変異や、外の環境が変わってそれに適応するように変化していったもの。どちらかだと考える人がほとんどなのではないか。しかし、それ以外にも進化の方法はある。それは、ウイルスによるものだ。

私たちの進化は、決して私たちがだけで行われたわけではなかったのだ。〈柴田〉

主な哺乳類

